

形 式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Follow-up in patients with localised primary cutaneous melanoma	
	論文の日本語タイトル	限局性皮膚悪性黒色腫の経過観察	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( )	
	ガイドライン上での目次名称	MMC Q-23-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( I )	
	Pubmed ID	16054572	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	6	
	号	8	
	ページ	608-21	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	2005、Aug	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Francken, A. B.	Division of Surgical Oncology, University of Groningen
	その他著者 1	Bastiaannet, E.	
	その他著者 2	Hoekstra, H. J.	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
その他著者 8			

レビュー研究の 6 項目	目的	悪性黒色腫患者の最適な経過観察法を検証する
	データソース	1985. 1-2004. 2の文献
	研究の選択	不明
	データ抽出	不明
	主な結果	72 報の論文中 2142 件(6.6%)の再発があり、62%は患者自身が発見していた。大部分の報告は積極的な定期検査の意義を認めていない。検診方法としては病歴と身体所見が効果対費用に優れていた。リンパ節の超音波検査は有用性が期待される方法であるが予後を改善するかは不明であった。患者は将来起こりうることの情報提供に感謝している一方、定期健診に不安を感じていた。研究の大部分は <b>retrospective</b> であり、エビデンスレベルが低かった。
	結論	意味のあるガイドライン作製にはよく計画された <b>prospective</b> な研究が必要である。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	八田尚人
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( I ) よく書かれたシステマティックレビュー